

平和祈念展 in 奈良

次の世代へ、あなたの街から、語り継ぐ。

入場
無料

平成25年
12月3日(火)ー12月8日(日)
午前9時ー午後8時

会場

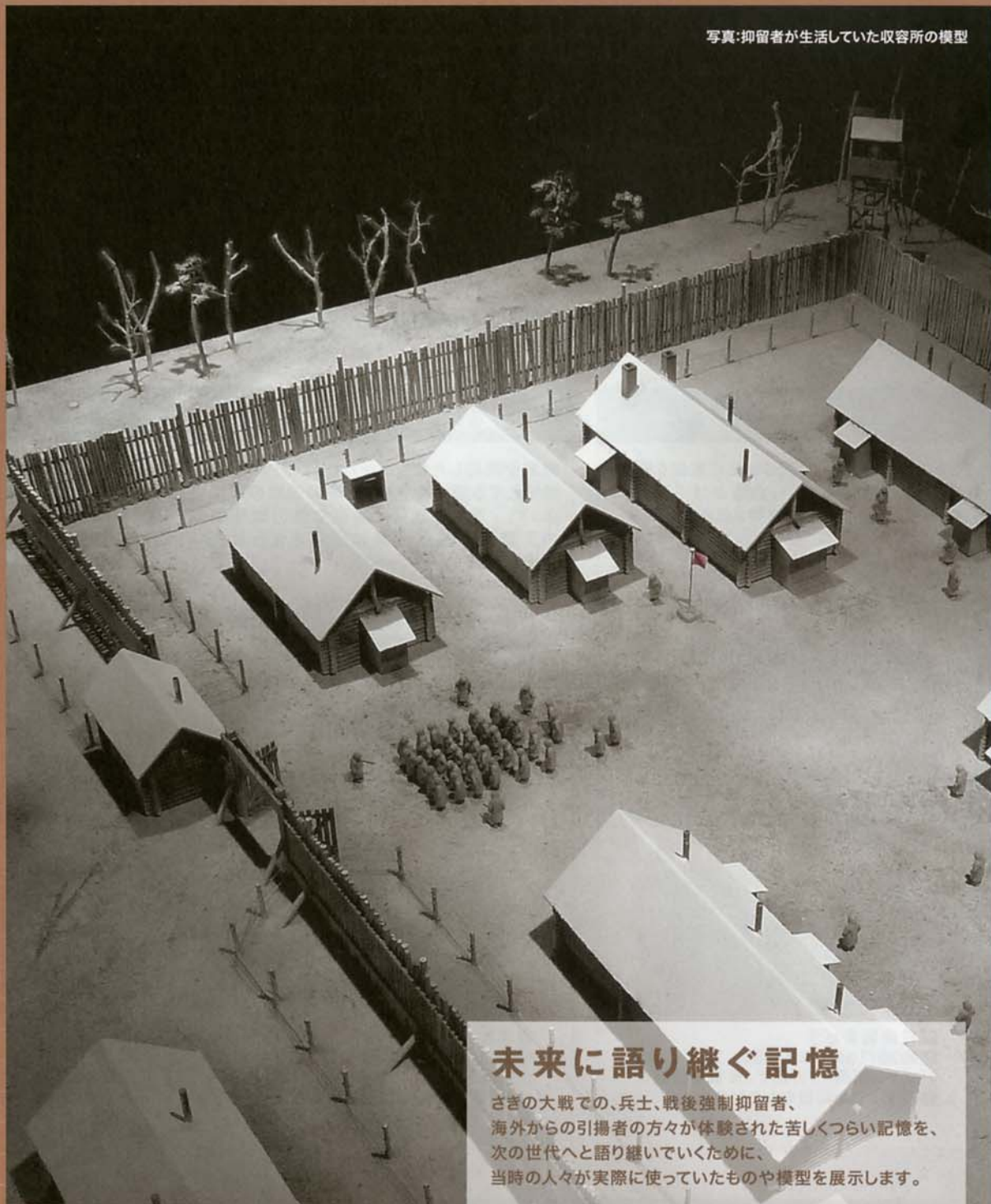
奈良県立図書情報館 2階
メインエントランス
(奈良県奈良市大安寺西1-1000)

主催:平和祈念展示資料館(総務省委託)

後援:奈良県・奈良県教育委員会・奈良市・奈良市教育委員会

協力:奈良県立図書情報館

写真:抑留者が生活していた収容所の模型



未来に語り継ぐ記憶

さきの大戦での、兵士、戦後強制抑留者、海外からの引揚者の方々が体験された苦しくつらい記憶を、次の世代へと語り継いでいくために、当時の人々が実際に使っていたものや模型を展示します。

兵士コーナー

臨時召集令状
(いわゆる赤紙)



戦後強制抑留コーナー

両袖をバンと
交換した袖なしの
防寒外套



海外からの引揚げコーナー

亡くなった赤ちゃんの
おむつで作った
子ども用ワンピース



平成25年12月3日(火)―12月8日(日)

平和祈念展 in 奈良

平和祈念展示資料館(東京・新宿)では、兵士、戦後強制抑留者、海外からの引揚者の方々が体験された苦しくつらい記憶を語り継いでいくために、館内外で企画展やフォーラムなどのさまざまな事業を行っています。

「平和祈念展 in 奈良」では、当資料館が所蔵する体験者の労苦を物語る代表的な資料や写真などを展示します。

兵士

さきの大戦において、国のために家族を残し、危険な戦地に向かい、命をかけて戦務に従事し、大変な労苦を体験された方々です。



■千人針

千人針とは、出征する男性のために、女性たちが武運と無事を祈って作ったお守りです。木綿の布に千人の女性たちが一つずつ赤い糸で留を縫いました。



■投降勧告ピラ

昭和20(1945)年7月頃に、フィリピンのバブヤン諸島・フガ島で、米軍が投降を勧告するために散布したピラです。

戦後強制抑留者

戦争が終結したにもかかわらず、シベリアを始めとする旧ソ連やモンゴルの酷寒の地において、乏しい食糧と劣悪な生活環境の中で過酷な強制労働に従事させられた方々です。



■ロシア製斧とのこぎり

抑留者は、斧やのこぎりなどを使って伐採作業に従事しました。



■写真

昭和23(1948)年7月頃に、抑留中の作業風景を写したものです。ソ連(現・ロシア)軍将校が撮影しました。

海外からの引揚者

敗戦によって外地での生活のよりどころを失い、身に危険が迫る過酷な状況の中をくぐり抜けて祖国に戻ってこられた、もしくはその途上で亡くなられた方々です。



■リュックサック

多くの母親が、大きなリュックサックを背負い、大きな荷物を持ちながら、子どもを連れて日本を目指しました。



■船内食器

昭和21(1946)年3月、台湾の高雄港で、引揚船に乗り込んだ時に支給されたアルミ製の食器です。

会場

奈良県立図書情報館 2階 メインエントランス
(奈良県奈良市大安寺西1-1000)

アクセス

JRをご利用の場合

・JR奈良駅から奈良交通バス/JR奈良駅バス停(10番のりば)から県立図書情報館行き(22系統)に乗りし、終点。(所要時間約15分)

近鉄をご利用の場合

・近鉄新大宮駅からエヌシーバス/新大宮駅前(南口)バス停から四条大路南町行き(8系統)に乗りし、県立図書情報館西口下車、徒歩5分。(所要時間約15分)
・近鉄奈良駅から奈良交通バス/近鉄奈良駅バス停(8番のりば)から県立図書情報館行き(22系統)に乗りし、終点。(所要時間約20分)

自家用車利用の場合

・国道24号線の柏木町交差点を東に折れ、1つ目の信号を左折。約700メートル先の左手側。

駐車場 普通車 311台 障害者用6台 バス5台



「平和祈念展 in 奈良」は東京・新宿の「平和祈念展示資料館」が企画・運営しています。

平和祈念展示資料館
(総務省委託)

入館
無料

東京都新宿区西新宿 2-6-1

[新宿住友ビル 48 階]

TEL:03-5323-8709

<http://www.heiwakinen.jp>

